



高瀬中だより

校長通信 No.8
2021.12.13

いじめや偏見・差別のない学校に～「人権デー」に寄せて 校長 千秋 久宣

先週の金曜日、12月10日は「人権デー」でした。国際連合は、1948年12月10日の第3回総会において、世界における自由、正義及び平和の基礎である基本的人権を確保するため、全ての人民と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」を採択しました。これに続き、1950年12月4日の第5回総会においては、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と定め、全ての加盟国及び関係機関が、この日を祝賀する日として、人権活動を推進するための諸行事を行うよう、要請する決議を採択しました。わが国においては、法務省と全国人権擁護委員連合会が、同宣言が採択されたことを記念して、1949年から毎年12月10日を最終日とする1週間（12月4日～12月10日）を「人権週間」と定めており、その期間中、各関係機関及び団体の協力の下、全国各地において、講演会、映画会等を開催するほか、テレビ・ラジオなどを利用した集中的な啓発活動を行っています。

さて、本校では4月以降、人権学習を中心とした人権教育を実践してきました。2年生の保護者の皆様には12月3日、「教科書無償運動」の授業公開をいたしました。（1・3年生の公開授業は3学期の予定です）保護者の皆様も教室内で授業に参加し、学習内容や子どもたちの様子をご覧いただきました。授業後、貴重な感想・意見をお寄せいただき、本当にありがとうございました。ぜひ、今後の参考にさせていただきます。

その後、本校では10日「人権デー」の日に「人権集会」を実施しました。その内容を少し紹介させていただきます。人権集会では、題して「ありのままに多様な自分たちを語り合おうじゃないかい（会）」を開催しました。

この会は「仲間づくり」「コミュニケーションの向上」を目的にしたものです。人権学習の大きな目的の一つが「仲間づくり」です。現代生活では、多くの人権問題が存在しています。また、なかなか自分一人の力だけでは解決の糸口にさえ到達しがたい問題が数多く存在します。もちろん、私たち大人が子どもたちの抱える課題や悩みに気づき、助言や指導をしていくことが努めだとは思いますが、その前に、子どもたちは子どもたちなりにお互いが抱える課題や悩みを共有し、コミュニケーションを通して解決に向かうきっかけ、方法をつかんでほしいと思うのです。お互いの考えを聞いて、自分の言葉で伝え合うことは、様々な人権課題に向き合う態度や仲間の存在の大切さにも気づくことにつながるはずです。

この会では、1年生から3年生まで縦割りの約15名が一つのグループとなり、語り合う場を設けました。「ファシリテーター」と呼ばれる進行役の生徒も、この日までに何度か事前研修を行い、準備・練習を積み重ねてきました。当日は、様々な考えが語り合われる中で、子どもたちは全員が友だちの話にしっかりと耳を傾け、そして堂々と自分の意見を述べることができました。こうした会を開催するにあたり、正直私たち教職員は最初、不安もありましたが、きっと大きな自信と今後の生き方にプラスになると思い、サポートしてきました。保護者の皆様にも不安やご心配をおかけしたことと思いますが、今後ともぜひ、ご理解と子どもたちへの激励をお願いしたいと思います。

話し合いの内容は「決して外に漏らさない」のがルールになっていますので、その中身については紹介できませんが、私自身、子どもたちのがんばりに、心より称賛を送りたいと思います。

